

戦後思想の巨大なタペストリー

対談=上野千鶴子・小熊英二(下)

小熊英二著『〈民主〉と〈愛国〉』の刊行を機に



上野 千鶴子氏（東京大学教授）

がわくしょくいじ白金和光
かくじゆうじゆく場所
はもつてゐるのですが、こ
こでもそういう印象を受け
ました。

では、ナショナリズムを批判するのも、ナショナリズムの読みかえだらうと。

小熊 別にあって刺激的な言い方をしているつもりはありません。この「ナショナル・スマッシュ」というのは、単位をとっても「国」を単位としている程度のことを考える」という意味ですから。

好むと好まざるとにかくわらず、近代社会は国を単位にして転がっている部分が大きい。政治としても、国という単位は無視はできない。そうした状況で何かを語ると、どうしても國という単位で語ってしまうの

不愉快な制約

は、不愉快な制約をさせて生きている以上、決してそれがそういう仕事の公認ではない部分だと言わざるを得ない。されどわれわれはナショナリストたるままで得ない制約をうけているだけです。逆にいうと私はおおむねのナショナリストですが、ナショナリズムが、ナショナリズムをもたらす危険性が生じ化してしまって思っています。いわばはそれを立ち上げてしまつて、立派な生き方をして生きたいのです。

のほ、『戦後民主主義はナショナリズムだった』、殖民地の扱いを批判することによって形で批評することも可能ですが、それだけでは下手をすれば『戦後民主主義』を他者化して『自己』を安全な位置にね、あるいは『ナショナリスト』でない自分を立ち上げているというふうにならなければいけない。よい悪い以前に、それは気持ちはいいから、やり方などがちがつた。最初から述べているように、私は研究

樂観的な定義？

上野 そこまで言うな
ら、ナショナリズムは公一

卷之三

A black and white portrait photograph of a young woman with short, dark, straight hair. She is wearing a light-colored, possibly white, turtleneck sweater. The photo is taken from the chest up, showing her from the shoulders up. She is looking slightly to her left with a neutral expression.

